

平成25年度

施策評価マネジメントシート(平成24年度の実績評価)

記入年月日  
平成 25 年 6 月 26 日

施策No.	政策名	豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	吉原志朗
302	施策名	生涯学習・芸術文化活動の推進	関係課	学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	市民	①桜川市人口		人	見込値			45,122	44,571	44,020	43,469	42,920
実績値					46,575	45,673	45,105	44,449				
見込値												
実績値												
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	生涯にわたって自ら学ぶ、学びあう	①日頃学習活動をしている市民の割合	%	目標値			25.5	26.0	27.0	28.0	29.0	30.0
実績値				25.2	23.5	22.3	24.8					
②生涯学習活動を通じて学びあっている市民の割合		%	目標値			42.0	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0	
			実績値	45.0	36.8	46.6	44.1					
目標値												
実績値												
成果指標設定の考え方	○生涯にわたって自ら学んでもらう、学びあうの成果指標は、①「日頃学習活動をしている市民の割合」、②「学習活動を市民同士で学びあいをしている市民の割合」(日頃学習活動をしている市民の中で)をアンケートにて調査。											
成果指標の把握方法と算定式等	○①対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○②生涯学習活動を通じて学びあっている市民の割合は、アンケートの「桜川市民に教えている」と「桜川市民から教わっている」の計。											

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	○生涯学習や文化活動に積極的に参加し、知識・見聞を深める。 ○市民講座等の講師となり、市民同士の学びの輪を広げる。	○生涯学習や文化活動施設の充実や生涯学習情報の提供により、市民の学習・文化活動を支援する。 ○各種広報活動や文化講演会の開催により、市民の学習・文化活動に対する意識啓発を図る。 ○市民同士の学びの輪を広げるため、市民講座の講師などの人材を育成・確保する。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	○余暇を利用して学習活動する部分があるので、景気の影響を受ける。 ○生涯学習、文化活動の拠点として整備された真壁伝承館の利用ができるようになり、活発な活動につながると考えられる。 ○現在活動している市民が高齢化している。 ○文化協会では、子どもたち(出前教室)を取り込む取組みを実施している。 ○活動がマンネリ化している現状もある。講座を企画募集しても集まらない。結果従来型の講座となる。	○市民アンケートの満足度、優先度調査の結果、満足度はやや高く、優先度は低い位置となっている。 ○自主講座を行う会場が少ないとの意見がある。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
①生涯学習及び芸術文化活動機会の充実	市民	学習の機会が充実している	指定講座の数(自主講座以外)	実績値							
				講座	35	25	28				
②生涯学習及び芸術文化活動の促進	市民	学びあう	自主講座数	実績値							
				講座	148	148	137				
③生涯学習・文化施設の充実	市民	利用しやすい	施設の利用人数 (伝承館・岩瀬公民館・大和公民館・改善センター・3分館)	実績値							
				人	77,960	85,329	106,941				

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	23年度実績	24年度実績	25年度予算
①本施策を構成する事務事業の数	件	38	37	37
②施策事業費(一般財源以外)	千円	424,616	1,114	1,018
③施策事業費(一般財源)	千円	80,923	70,001	81,775
④施策事業費の計(②+③)	千円	505,539	71,115	82,793
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	40,807	49,889	62,347
⑥計(④+⑤)	千円	546,346	121,004	145,140

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
主要事業	図書館整備事業	後期基本計画主要事業
事務事業	こども伝統文化教室	H24年度貢献度評価上位、H25年度優先度評価上位
事務事業	桜川市文化協会助成事業	H24年度貢献度評価上位、H25年度優先度評価上位

実施番号	302	施策名	生涯学習・芸術文化活動の推進	主管課	生涯学習課
------	-----	-----	----------------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>・日頃学習活動をしている市民の割合は、20年度26.5%、21年度25.2%、22年度23.5%、23年度22.3%、20年度をピークに若干低下していたが、24年度については24.8%であり、若干ではあるが上向き傾向にある。余暇の時間を生涯学習に投入された市民が増えたと考えられる。</p> <p>・市民同士で学びあいをしている割合は、20年度46.0%、21年度45.0%、22年度36.8%、23年度46.6%、24年度44.1%と、22年度は落ち込んでいたが、23年度は上昇し、24年度については、若干減少している。22年度は、真壁伝承館の施設の建て替えに伴い、使用できなかったことや震災の影響が要因と思われる。全体としては、個人的に学習をしている市民同士がグループを組織化し、情報交換をし合っている傾向にある。</p> <p>・地区別に見ると、学習活動をしている市民は、岩瀬地区23年度22.8%、24年度24.0%、真壁地区23年度21.0%、24年度25.3%、大和地区24.7%、24年度25.1%となっており、大和地区が前年とほぼ変わらなかったが、岩瀬・真壁地区で若干増えた。</p> <p>・年齢別に見ると、20代が23年度29.3%、24年度10.8%、30代23年度20.0%、24年度9.4%、40代23年度21.8%、24年度8/5%、50歳代が23年度21.9%、24年度13.9%、60歳から64歳が23年度19.0%、24年度13.5%、65歳～74歳が23年度24.9%、24年度29.2%、75歳以上が23年度27.0%、24年度12.6%となっている。30代～40代が他の年代より低いのは子供の学校内外での教育に拘束されるため、自己の生涯学習活動の時間が少なくなるためと思われる。</p> <p>・生涯学習講座数(指定講座)については、31講座実施しているが、地区別に見ると岩瀬地区13講座、真壁地区8講座、大和地区10講座である。</p> <p>・生涯学習講座数(自主講座)については137講座実施している。地区別に見ると岩瀬地区が91講座、真壁地区30講座、大和地区16講座となっている。岩瀬地区において他地区より多いのは、公民館における研修室が充実しており、学習機会が比較的多いこと、また、従来から定期講座が多くあり、講座がきっかけのサークル活動も増えていったためと思われる。また、受講者が固定化してきている面がある。</p> <p>・文化協会加入団体は60団体、高齢化に伴い退会する団体も多いが、公民館の自主講座から加入した団体もあり、横ばいである。</p>		

1)②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>①日頃学習活動をしている市民の割合は、24年度目標値26%に対し24.8%と1.2ポイント下回った。</p> <p>②生涯学習活動を通じて学びあっている市民の割合は、24年度目標値42.0%に対し44.1%と2.1ポイント上回った。</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>・生涯学習活動をしている市民の割合は桜川市の24.8%(平成24年度)。近隣の市で見ると、真岡市24.5%(24年度)、守谷市38.9%(23年度)、佐野市21.3%(23年度)、桜川市と比較すると真岡市はほぼ変わらないが守谷市比だと14.1%と低い数値となっている。</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>・生涯学習活動をしている市民割合は、前年度比2.5ポイント増加したことは、少しずつ市民の文化活動・学習活動意欲が上向いたと思われる。各中央公民館等の各種施設の老朽化もあり、市民の要望に十分に答えられていない点もあると思われる。</p> <p>・「こども伝統文化教室」では文化協会団体が主催し、茶道・華道・将棋・俳句、伝統民俗芸能3団体などの日本の伝統文化や民俗芸能の後継者育成に寄与している。</p> <p>・「市民文化祭事業」は第8回目を迎えた。作品展、茶会、いけばな展については会場や参加者の高齢化等の問題から、岩瀬地区、大和地区、真壁地区それぞれで開催。出品者・参加者が高齢化するなか、市内の園児や小中高校の生徒や福祉施設の参加者も増え、市民文化祭としての賑わいを呈してきた。また、俳句・短歌・将棋大会には児童生徒の参加も多くなり、音楽祭には一般の音楽愛好者の参加も増え、市民でつくる文化祭の意識が高くなってきた。</p> <p>・その他の事務事業では、「市地域女性会運営補助事業」は、女性の地位向上のための学習、幹部会研修並びに後継者養成、各地区におけるボランティア等、地域に未着した活動を行っている。</p> <p>・「放課後子どもプラン推進事業(放課後子ども教室)」は、放課後における子ども達の安全で健やかな居場所を提供し、地域の方々の協力のもと各種教室を開催し、その成果を上げている。</p> <p>・「高齢者学級事業」は、「高齢者に生き甲斐を持った豊かな生活を送ってもらう」ことを目的とし、各種教室を開催している。学習意欲が高く、参加希望者も多いことから高齢者に心豊かで健康増進に努める事に貢献した。</p> <p>・「桜川市文化協会助成事業」は、市の芸術文化の向上、振興と、各支部の団体の交流をはかるための助成事業である。各団体の高齢化による会員の減少はみられるが、公民館講座から進展し自主講座グループが加入するようになってきている。また、支部ごとに組織運営体制がとれるようになりつつある。</p>		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<p>24年度は、生涯学習・芸術文化活動に取り組んでいる人に対して、「学習の機会が充実している」を目標に重点的に取り組んだ。</p> <p>・貢献度評価の結果では、貢献度の高かった事務事業は、「こども伝統文化教室」「市民文化祭事業」であった。</p> <p>・「こども伝統文化教室」では文化協会団体が主催し、茶道・華道・将棋・俳句、伝統民俗芸能3団体などの日本の伝統文化や民俗芸能の後継者育成に寄与している。</p> <p>・「市民文化祭事業」は第8回目を迎えた。作品展、茶会、いけばな展については会場や参加者の高齢化等の問題から、岩瀬地区、大和地区、真壁地区それぞれで開催。出品者・参加者が高齢化するなか、市内の園児や小中高校の生徒や福祉施設の参加者も増え、市民文化祭としての賑わいを呈してきた。また、俳句・短歌・将棋大会には児童生徒の参加も多くなり、音楽祭には一般の音楽愛好者の参加も増え、市民でつくる文化祭の意識が高くなってきた。</p> <p>・その他の事務事業では、「市地域女性会運営補助事業」は、女性の地位向上のための学習、幹部会研修並びに後継者養成、各地区におけるボランティア等、地域に未着した活動を行っている。</p> <p>・「放課後子どもプラン推進事業(放課後子ども教室)」は、放課後における子ども達の安全で健やかな居場所を提供し、地域の方々の協力のもと各種教室を開催し、その成果を上げている。</p> <p>・「高齢者学級事業」は、「高齢者に生き甲斐を持った豊かな生活を送ってもらう」ことを目的とし、各種教室を開催している。学習意欲が高く、参加希望者も多いことから高齢者に心豊かで健康増進に努める事に貢献した。</p> <p>・「桜川市文化協会助成事業」は、市の芸術文化の向上、振興と、各支部の団体の交流をはかるための助成事業である。各団体の高齢化による会員の減少はみられるが、公民館講座から進展し自主講座グループが加入するようになってきている。また、支部ごとに組織運営体制がとれるようになりつつある。</p>
-------------	--

8. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策全体	日頃生涯学習活動をしている市民の割合が2.5%増加しているが、岩瀬・大和中央公民館等の各施設の老朽化が懸念される。23年度に真壁伝承館が完成したこと、新しい施設の活用など有効に活用できるソフト面の基盤整備が必要である。また、市民の半数が何らかの学習活動をする状況を目標とし、さらに、30・40歳代の子育て世代に対しても、「家庭教育」関係の学習活動をサポートする必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもから高齢者までだれもが自ら学び、その成果を活かせるよう、生涯学習の施設整備・機能を充実させるとともに、公民館講座や自主活動等の機会拡充、地域の関連団体の育成等に努めます。</li> <li>・芸術、文化活動については、既存の文化施設や地区公民館等を活用し、市民の活動を支援するほか、国内外の音楽・演劇等の芸術活動にふれる機会の充実にも努めます。</li> <li>・市民の芸術・文化活動に対するニーズの高まりに対応し、拠点となる施設の整備を検討します。</li> </ul>
基本事業	①生涯学習及び芸術文化活動機会の充実	市民や地域並びに生涯学習団体、芸術文化団体等との連携の中で、子育て世代をはじめ、様々な年代の市民ニーズに応じた講座・教室・イベントを開催し、市民が自ら学びたい環境づくりを推進します。また、芸術文化活動の成果発表の機会を提供するとともに、優れた芸術文化に触れる機会を充実します。
	②生涯学習及び芸術文化活動の促進	各種生涯学習団体、芸術文化団体等との連携により、一緒に学ぶ仲間づくりや自主的な活動を促進します。また、文化祭など芸術・文化活動などの成果を市民が発表する機会を開催し、個々の活動の情報発信を行い、市民の芸術文化活動に対する意欲を高める取り組みを支援します。
	③生涯学習・文化施設の充実	図書館の整備・生涯学習施設の整備を進めるとともに、図書システムの導入(岩瀬・大和中央公民館)や学習相談・支援体制を充実させ、生涯学習情報の一元化や施設の有効活用を図り、市民の利便性向上に努めます。